

(論文題目)

*代表著者氏名(所属学科またはコース, 学生番号), 著者氏名(所属学科またはコース, 学生番号)

(*:アスタリスクは、単著の場合は不要。共著の場合は、代表執筆者の先頭につけること)

論文概要

キーワード

(キーワードは3つまで)

1. 研究の目的

- ▶ 研究の対象, 研究の背景, 動機, 問題意識などを記述する.
- ▶ この研究が何をどの程度明らかにするのかが分かるように具体的に示す.
- ▶ 既往研究の状況, それらと本研究の関係についても述べられることが望ましい.

4. まとめ

- ▶ 研究によって得られた成果, 研究の意義・貢献, 今後の課題・展望などを記述する.
- ▶ 研究の独創性, 新奇性, 研究によって得られた成果の客観的評価を端的に示す.
- ▶ 研究全体を俯瞰し, 本学学生による研究としての位置づけなどが述べられることが望ましい.

2. 研究の方法

- ▶ 研究の枠組み, 論文の構成, 調査・分析・考察の方法などを記述する.
- ▶ 研究の目的をどのように達成するのかが分かるように明確に示す.
- ▶ 研究方法の妥当性について強く意識して述べられることが望ましい.

5. 参考文献

- ▶ 引用文献, 参考資料などを示す.
 - ▶ 原則として, 読者が参照可能な形式で記載されなければならない. (学部シラバス: 卒業論文執筆要領参照)
- 例 小宮山隆太郎・天野明弘『国際経済学』, 岩波書店, 1972年, p. 10
- ネット例 文部科学省「留学生の受け入れ概況(平成13年版)」
2001年10月発表、文部科学省 Homepage
(<http://www.mext.go.jp/>)、2001年1月現在

3. 研究の結果

- ▶ 研究の結果を記述する.
- ▶ 研究によって得られた結果を明確に述べる.
- ▶ 著者の恣意的な解釈を極力加えず, 研究結果をありのままに示すことが望ましい.
- ▶ まだ十分な結果を出すに至っていない場合は, 見通し, 進捗状況を書き添える.

<その他の記載要領および注意事項>

- ① [論文題目]: 研究の内容を端的に現すものを付けること. 2次審査論文と異なっても良い.
- ② [著者]: 単著の場合は1行に書く. グループ応募の場合は, 代表者名の前に“*”を付して先頭に書き, 他の著者の氏名を続けて書く.
- ③ [概要]: 3行の枠内に収まる分量で書く.
- ④ [キーワード]: 論文の内容を現すキーワードを3つ程度示す.
- ⑤ 執筆にはワープロ等を用い(手書き不可), 文字体はMS明朝体, 文字の大きさは9pt以上とする.
- ⑥ 和文(日本語)の場合は2段組とする. 欧文(英語)の場合は1段組にしても良い.
- ⑦ 分量は「1応募につき1枚」を厳守.
- ⑧ 節の項目(背景, 方法等)は適宜変更して良いが, 研究の全貌が分かる構成を心がけること.
- ⑨ 図表はカラーで挿入して良いが, 白黒印刷した場合に判読可能になるように配慮すること.
- ⑩ その他, 不明な点は各自で判断して良い(そのことで形式違反とはしない). ただし, つぎのようなものは, 口頭発表の機会が与えられないことがあるので注意すること.
 - ・ 論文の目次(章・節題目)のみで論文の体裁を成さないと判断されるもの.
 - ・ その他, 文言や表現などが本学学生の研究論文としてふさわしくないと判断されるもの.